

キラリ
レポート市民編集委員の
視点から

川村はるみさん

～子どもたちが熱く語る、本への想いが白熱～
清瀬教育の日 ビブリオバトル

清瀬市教育委員会では、10月17日から19日までの3日間を「清瀬教育の日」とし、さまざまなイベントを実施しています。その1つ、ビブリオバトルが都立清瀬高校にて行われました。子どもたちが本の魅力を発表し合い、本を通じてお互いを理解し合う面白いイベント「ビブリオバトル」について紹介します。

面白い試みビブリオバトルとは…？

出場者が、お薦めの1冊を1人5分間で紹介。2～3分間の質疑応答を設け、最後に参観者全員で一番読みたいと思った本に投票。最も多く票を集めた本＝「チャンプ本」を決めるゲーム、知的書評合戦とも呼ばれています。

子どもたちの「話す力」や「聞く力」更には「対話する力」にも繋がり、学校や図書館・書店などいろいろな場所で開催されています。

私の“お薦めの本”を紹介

清瀬市教育委員会主催のもと、今年で2回目の「清瀬教育の日 ビブリオバトル」。書評発表とビブリオバトルに、市内の小学生から高校生までの11人が参戦し、SF（サイエンス・フィクション）やホラー、ミステリー小説や青春小説など幅広いジャンルの本を紹介。参観者の皆さんも興味溢れる様子で熱心に聴かれていました。

中学生によるビブリオバトルの前に、十小6年生と清瀬高校1年生の2人が書評発表を行い、緊張感溢れるなかでお薦めの1冊を紹介。本から得た感動や、本への想いが伝わる素晴らしい発表でした。唯一の小学生、堀さんは「本が大好きで、本への想いを届けたい気持ちから参加しました。5分間に想いを込めました」と、その言葉とおり気持ちのこもった発表となりました。参観者からは「小さいころを知っているの、成長した姿を見て胸が熱くなりました」などの温かい言葉もあり、会場が穏やかな雰囲気になりました。

書評発表する堀さん



中学生ビブリオバトルで熱弁

市内中学校5校から9人のバトル（紹介者）が参戦。「イチ押しの本」を手に、一人一人が本への想いや自分の考えをしっかりと5分間にまとめ上げ、個性溢れるスピーチで熱弁。参観者からも多くの質問や意見が飛び交い、白熱した実りあるビブリオバトルとなりました。

チャンプ本には『ふちなしのかがみ』が選ばれ、バトルの



中学生による「ビブリオバトル」

矢島さん(三中)は、昨年に引き続き2連覇達成です。「今日に向けて精一杯練習してきました。すごく緊張しましたが、楽しくできました。ぜひ、読んでもらいたい本です」と笑顔で話してくれました。

また、発表を終えた子どもたちは「すごく緊張したけど、楽しかった」「新しいジャンルの本を知れてよかった」「会場からも“読んでみたい”と共感をもらえて嬉しかった」などと、達成感溢れる表情で元気に答えてくれました。

取材を終えて

読書を通じて、心の成長を遂げる子どもたちの姿に、改めて読書の大切さを考える良い機会となりました。来年も、この学び多きビブリオバトルに多くの子どもたちが参戦し、貴重な体験をして欲しいと思いました。



発表後の参加者からの質問や意見

紹介された素敵な本たち

『ゼツメツ少年』（重松清 新潮社）
『ほしのこえ』（新海誠、大場惑 | 角川文庫）
『さいとう市立さいとう高校野球部』（あさのあつこ 講談社）
『世界でいちばん長い写真』（菅田哲也 光文社）
『卒業』（重松清 新潮社）
『僕は上手にしゃべれない』（椎野直弥 ポプラ社）
『ふちなしのかがみ』（辻村深月 | 角川書店）
『氷菓』（米澤穂信 KADOKAWA）
『きみの友だち』（重松清 新潮社）
『まなの本棚』（芦田愛菜 小学館）
『ビブリア古書堂の事件手帖～葉子さんと奇妙な客人たち～』（三上延 メディアワークス文庫）

消費生活相談の
現場から一頼んでいない工事－
突然の訪問販売に
気をつけて

【事例1】

台風の翌日、知らない業者が訪ねてきて「お宅の屋根瓦が浮いていたので、修理をしておいた」と言われた。私に許可なく勝手に屋根に上がったことを不審に思ったが、料金を支払ってしまった。その後、知り合いの業者に屋根を見てもらったところ修理は行われていないことが分かった。返金してほしいが事業者名も連絡先も分からない。

【事例2】

高齢の独居の母宅に突然業者が訪ねてきて「網戸の修理をしませんか」と言われた。網戸の建て付けを見てもらったところ、勝手に網戸2枚を取り替えられられるまに料金を支払ってしまったという。自分としては網戸の交換は依頼していないので返金してもらおうと思うが、母は「業者が怖いので、関わりたくない。お金はあきらめる」と言っている。

【アドバイス】

最近、依頼していない工事を勝手に行われ一方的に料金を請求されたという相談が増加しています。また台風などの自然災害の後



は事例1のような屋根の修理サービスのトラブルが多く発生します。今回の2つの事例ではクーリング・オフが可能です。事例1は事業者を特定できないため、返金を受けられません。必ず業者の連絡先を確認しましょう。

事例2では契約者がクーリング・オフの申し出を躊躇されています。今後のトラブルを未然に防ぐためにも最初の段階で消費生活センターが事業者交渉を行い、この消費者は行政が見守っていると思わせることが重要です。悪質業者は消費生活センターの目の届かない消費者を狙っています。

消費生活センター ☎042-495-6212（相談専用）

第3回 旭が丘
団地と高速道路

旭が丘は、昭和40年代に大きく変化した地域です。団地ができるまで、一帯は畑や雑木林でした。「旭が丘」という地名は昭和42年誕生。同年その名を冠する旭が丘団地が完成し、9月、入居が始まりました。総戸数2100戸。想定される人口増に応ずべく第五小学校と第三中学校が9月1日開校。翌月には第三保育所も開かれました。

旭が丘団地の入居開始に続いて、高速道路の工事が始まりました。写真は、昭和45年ごろ急ピッチで工事が進む東京～川越間高速道路（関越自動車道）の様子です。土を運ぶダンプカーが多数行き交いました。

開通後の騒音対策で、団地通過部分の高速道路をすっぽり覆うフタ掛け工事が昭和50年代に入ってから施され、今に至っています。



新たな『清瀬市史』の編さん事業を行っており、昭和・平成の清瀬の写真を集めています。ご協力ください。＊今までの収集資料に基づき市史編さん室が記事を担当しています＊